

令和2年1月20日  
自由民主党政和会 古谷幸男

那覇市  
都市景観条例について

首里金成重点地区 壺屋地区 龍潭通り沿線地区において、都市景観形成地域に助成金が交付されている。対象は、赤瓦屋根、石積み、石張り、木材等を使用した外壁である。100万円を上限として1敷地に付き、2/3以内となっている。できる限り寄棟にすること、またソーラーパネル等の設置は控えることとなっている。

屋根の瓦が赤瓦となっているのはなぜかと聞いてみたところ、明確な回答が担当から得られなかったのが残念であった。

都市景観を重視するのであれば、やはり歴史的背景も十分に承知し、説明が欲しかった。せつかくの財産であり、将来にあたり大切にしていきたいと切に願う。その取り組み自体は理念や歴史、文化、誇りを感じた。

首里城は残念ながら火災にあい、その後の復興が待たれる状況である。

令和2年1月21日  
自由民主党政和会 古谷幸男

石垣市  
農業振興施策について

平成27年度から、沖縄振興特別推進市町村交付金事業（10年間）を活用し、「農水産物プロモーション事業」として取り組んでいる。

東京プロモーションとして、東京拠点施設を西麻布へ、そしてH30年に代官山町へ移転し、現在も継続している。

台湾にも進出を計画したが、気候条件が同様なため、あまり効果なく、駐在は取り止めた。（H26～H29）

有望な農水産物は、石垣牛、もろみ豚、マグロ、アカマチ、モズク、パインアップル、マンゴー、ハブ、紅イモとなっている。

今後は、長所を生かし短所を補えるプロモーション戦略を展開したいとのことであった。

利点として知名度、北緯24度の地理的条件、多品種などが考えられるが、短所として台風、距離、流通コスト、経営の不安点などがあり、今後の大きな課題といえる。

しかし実際、石垣牛を食すとその旨さに満足したこと、経営者がかなり前向きに取り組んでいる状況との話を聞いたこと、今だ人口も増えている現状があることを考えれば、石垣市の将来は明るい兆しがあると思われる。

委員会行政視察《那覇市》  
質問・答弁及び所感

吉安新太

議員

視察事項

問

景観と観光は一セットだと思うが、インバウンドへの取り組みは？

答

台湾と近いので、空港とターミナルからの利用者が多い。

問

米軍住居の跡地は大幅な区画整理がおこなわれただろうか？

答

地権者とURとで、再開発が行われた。

問

よい景観、美しい景観とは？

答

緑と華やかな花。歴史文化遺産を発見し保全し活用する。

所 感 先の大戦で、戦前の景観を失ったので、取り戻すべく取り組まれている。那覇市は、多くの埋め立て地によって、都市づくりが行われた。鉄道は、大戦で失われ、モノレールを除く、日本唯一の鉄道のない自治体である。泡盛の工場が主要産業の一つだった。戦争により約9割の街並みが消失した。

都市計画にあたり、都市計画の権威であった、早稲田大学教授の石川氏を招へいした。戦前→戦後→本土復帰と、様々な時代を巡りながら、都市景観行政が行われてきた。景観都市の策定。シビックプライド＝都市は人なり。

亜熱帯庭園都市をテーマにした街づくり。町の建物には、色彩基準も設けられている。白っぽい街に、赤瓦が映えるように。石垣の修復も道路の一部として、市のほうで直している。とても綺麗な街だった。以上。

委員会行政視察《石垣市》  
質問・答弁及び所感

吉安新太 議員

視察事項

問

農家の高齢化は？また、後継者は育っているか？

答

全国、他県と変わらず、高齢化は進んでいる。農家も減少傾向にある。

問

人口が近年、微増しているのは移住ですか？

答

移住も勿論あるが、他市に比べて、出生率が高い。

問

答

所感

パインの生産が主要産業になっている。農業の3分の2は、畜産業。さとうきび、すいとうも生産が盛んである。

北部が過疎化しているので、市が、テコ入れしている。ハーブ講習会などを行っている。

渋谷区にアンテナレストランを設置することで、PR情報発信基地となっている。

6次産業化された商品。さとうきび、すいとう、パイン、肉用牛、オクラ、モズク、ヘリコニア、ジンジャー類、ヤイトハタ、シャコガイ、クルマエビ等。

農業のメリットとして、土壤環境が豊かなので、生產品目が多い。少量多品種。

デメリットとして、年間、数回台風が襲来する。園芸作物は施設がないと栽培できない。「作ったものを売る」から、「売れるものを作る」への転換期だった。